瑞山会会報

創刊号

昭和53年12月14日(木)

編集発行／名古屋市立大学経済学部同窓会・瑞山会編集部
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1（名古屋市立大学経済学部内）

設立総会開かれる

学部創立15年目にて念願達成

去る十一月十九日（日曜日）午後五時より名古屋市立大学経済学部同窓会（瑞山会）設立総会が、名古屋駅前の都ホテルにおいて開かれた。総会には、卒業生一六〇名余及び来賓として、高木学長、松井学部長など十七名が出席され、広い会場は熱気に包まれ盛況を極めた。

この総会は、昭和四十三年に第一期卒業生が誕生して以来長年の念願である同窓会設立をかけた記念すべき会である。

午後五時司会（一期生の手塚祥郎氏と小林英紀氏）の挨拶で幕があき、議事進行役として議長と書記二名が選出された。以下議長のリードにより、経過報告、会計報告、会則の採択、役員選出が行われ、賛成多数で承認された。

次に来賓の入場後、高木学長と松井学部長から祝辞を受けた。続いて既に惜しくも亡くなられた十名の方を偲んで黙禱が行われた。

前半の締括りとして初代会長に選出された一期生の粟野泰次氏から挨拶があり、今後の会の事業計画について説明がなされ、又学部長、事務長、長坂登氏の三名の方に対し、本会の顧問への要請がなされ拍手で承認された。

後半に入り、瑞山会発足を祝して高木学長と静田名誉教授により鏡割が行なわれ、初代学部長の一谷名誉教授の発声で乾杯が行なわれた。以後なごやかな、くつろいだ雰囲気の中で会は進んだ。

静田名誉教授を始めに、来賓の方から次々と祝辞があり、その度ごとに盛大な拍手がわき起った。

会も進んで、雰囲気も更に盛り上がり、壇上でマイク片手に踊りながら歌う者や、恩師を囲んでゼミ生達がカラオケで歌う姿など、場内は熱気に包まれた。又本日の為に特別参加をした本学合唱部の指揮により、「あゝ我らの名市大」を全員で斉唱した。

会の終わりには、締括りを飾って松井学部長の発声で万才三唱が行なわれ設立総会は幕を閉じた。

総会次第

開会のあいさつ　（午後五時）
議長選出
議長あいさつ
経過報告
会計報告
会則（案）議決
役員選出
来賓祝辞
物故者黙とう
会長あいさつ
鏡割
乾杯
来賓スピーチ
祝電披露
学生歌斉唱（合唱部）
中締（バンザイ三唱）
閉会のあいさつ（午後七時三〇分）

議事報告

昭和五三年十一月十九日
名古屋都ホテル

議長　都島忠比古（三期）
書記　安田　章（三期）
　　松原　隆三（四期）

上程された議案は五議案であった。出席会員数一六〇名余。

経過報告（三期　山田雅也）

本年二月二四日有志により初めて同窓会組織の結成を目的にした会合が持たれ、その後、四月十三日に準備会の発足を確認した。

作業としては、会員の掌握、名簿作成、会則の検討、総会の準備等ご参加頂いた準備委員の方々には格段のご協力をいただいた。会員の掌握状況は卒業生一八五八名のうち、一七〇〇名余を数え、今総会において、会員名簿の配布まで漕ぎつけることが出来た。

―承認可決―

準備会会計報告（二期　坂野　修）

今回、準備会として活動を始めるにあたって、もっとも苦慮した点は活動に伴う資金の捻出であり、当初は一部準備委員の方の立替によってスタートしたが、五月には経済学部より助成金を頂き、以後大学後援会からの援助金と有志からの寄付により諸経費を賄うことが出来た。総会により同窓会発足時点で準備会会計は終了するが、残余金四〇、九四一円につき、同窓会へ引き継ぎたい。―承認可決―

収入の部		支出の部	
援助金（経済学部）	150,000	通信費	221,970
援助金（後援会）	100,000	印刷費	114,800
寄付（有志）	131,097	消耗雑費	3,610
利息	224		
計	381,321	計	340,380
残余金			40,941円

会則の採択

本会の今後の運営のため、会則案が上提され、原案通り承認可決された。原案の策定については、一期生の山田忠雄氏に格段のご尽力を頂いた。

役員選出

十月三十一日までに立候補の届出のあった方、準備会に於いて互選された方々のうちから役員に次の四氏が選任された。

会長　粟野泰次　一期生
副会長　小林英紀　一期生
　　山田雅也　三期生
　　八木得三　五期生

初年度事業計画

選出された新会長より初年度の事業計画の説明が行なわれた。

一、名簿発行
二、会報発行
三、支部づくり
四、財政基盤の確立

―承認可決―

理事紹介

粟野　泰次　一期生　大山ゼミ
小林　英紀　〃　小林ゼミ
近藤　常夫　一期生　平田ゼミ
榊原　茂　〃　松永ゼミ
河野　敏雄　〃　一谷ゼミ
山田　義信　〃　松永ゼミ
山田　忠雄　〃　一谷ゼミ
坂野　修　二期生　山本ゼミ
山田　雅也　三期生　松永ゼミ
和田　了司　〃　岩橋ゼミ
都島忠比古　〃　山本ゼミ
安田　章　〃　木村ゼミ
松原　隆二　四期生　中居ゼミ
杉浦　晴義　五期生　松永ゼミ
八木　得三　〃　山本ゼミ
木村　新作　〃　岩橋ゼミ
浜田　茂　〃　柴田ゼミ
大谷　正治　〃　木村ゼミ
伊藤　正博　六期生　牛嶋ゼミ
鈴木　正彦　七期生　芝原ゼミ
田中　喜夫　〃　岡崎ゼミ
佐藤　克己　八期生　岡崎ゼミ
荒深美和子　九期生　木村ゼミ
岡田美津雄　十期生　中居ゼミ
沢田　武昭　十一期生　松井ゼミ
蜂須賀　誠　〃　塩見ゼミ

監事紹介

前田　勝昭　一期生　岡崎ゼミ
阪野　修二　〃　金子ゼミ
手塚　祥郎　〃　牛嶋ゼミ

代議員紹介

一期生　鈴木　迪雄　寺町　信雄
　　鈴木　桂二　渡辺　真一
　　逸見　和弘
二期生　上野　恒男　西　縁
　　玉野　雅清　山本　信彦
　　林　伸二
三期生　山田　欽一　浅岡　邦康
　　岡井　隆　品川　正典
四期生　平子　直昭
　　堀　正憲　佐藤　雅郎
　　柴山　昭三　御友　勉
五期生　水野　文夫
　　近藤　淑徳　黒宮　孝二
　　舟津　英夫　森　健次
　　鈴村　高康
六期生　柴田　善和　長江　渉
　　杉山　明美　山田　昇可
　　伊藤　秀夫
七期生　大蔵　和廣　青木　輝雄
八期生　大塚　邦夫　横山　明己
　　箭内　勝彦　久納　修治
　　小杉　孝志　山田　隆三
九期生　松尾　民男　加納　孝行
　　坂井　健夫　渡辺　吉仁
十期生　亀井　邦弘　早川　裕朗
　　伊藤　正義
十一期生　岩田　栄一　伊藤　俊幸
　　鈴木　秀典　寺沢　賢治

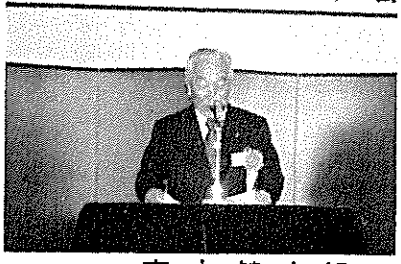
来賓祝詞

当日は多数の先生方から暖かいご祝辞をいただいた。紙面の都合上、その全てをご掲載できないのが残念です。

名古屋市立大学経済学部同窓会瑞山会が設立される今日、この総会におまねき頂き誠にありがたく存じます。また皆さま方たいへん大勢お集まり頂きまして、この総会が非常に盛んであるということで、感慨ひとしおでございます。

このご案内によりますと一八〇〇有余の方々がすでに経済学部を卒業されまして、世話人の方々のお世話で一七〇〇名ぐらいの方々とご連絡が取れ、今日めでたくこの総会の開催にこぎつけられたということで、そのご努力に対しましては非常に感謝すると同時に、おめでたくお慶び申し上げる次第でございます。

この式次第を見ますと、最後に校歌が歌われるということで、私まだ学長になって校歌というものを知らなかった訳ですが、今日初めて聞かせて頂けるというので非常に期待している訳でございます。先般ある会場で校歌あるいは校旗がないというのも誠におかしいのではないか、あるいは徽章もないと、そういうものはいらないものかもしれないと思いますが、こうやってお集まりになってごいっしょに何か歌うというのは非常に心のつながりとしては、またこの会の目的である親睦という上からは、大変良いことであると思う訳です。いつも「でかんしょ」とか、そういう歌では、ちょっとこれは名市大の同窓会ともいいにくい、そういう意味では、私、たのしみにもしていますし、こういうご企画をして頂きました準備委員の方々、役員の方々に重ねてお礼申し上げまして、今後なおこの同窓会がご発展なさいますよう、お祈りいたします。



学長　高木健太郎

経済学部の設立総会にお招きいただき厚くお礼申し上げます。経済学部が発足してから丁度今年で十五年目にあたります。それで経済学部としましても何か有益な催しを考えていた矢先に、卒業生の有志の方々から同窓会を作りたいというふうな相談を受けまして、経済学部の教授会を挙げて、ご支援の約束をしたのでありますが、その後準備委員の方々が献身的にご努力されまして、無事発足の機会がもたれたことを心からお慶び申し上げます。経済学部の近況といったようなことをお話ししまして、ごあいさつにかえたいと思います。

経済学部はご承知のように昭和三九年四月に第一回の入学生を迎えた訳でありますが、当時は川澄の旧名高商の建物を使っておりまして、一・二回生の方々には随分ご迷惑をおかけした訳でございます。しかし、四二年度中には山の畑の現キャンパスに経済学部の建物、それから図書館が完成しまして、新しい校舎で第一回卒業生の卒業式を挙行できましたのは何より幸いだと考えております。その後研究者の養成のために大学院の研究科・修士課程・博士課程が設立され、また学部の入学定員も二〇〇名に増員されまして規模におきましては名大と肩を並べる大きさになりました。その他施設の面でも、例の大学紛争を契機に体育館とか学生会館、クラブハウス等、学生の厚生施設が飛躍的に整備され、大学院学生用の研究室、ゼミナール室が増築されました。

学部長　松井哲夫

本年度はゼミナール室の増築工事がすすめられて、経済学部の特色である、きめのこまかいゼミナール教育の徹底というふうなものが実現できると思っております。古い卒業生の方々は山の畑の校舎を訪れると、恐らくその変貌に今昔の感にうたれるに違いないと存じております。

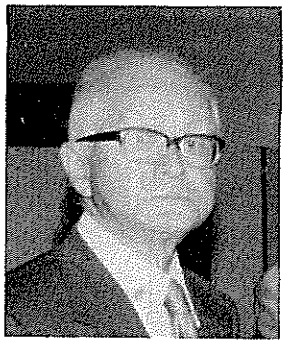
またスタッフの面でも発足当初は一応十二講座をめざしておりましたけれども、その後大学院の設置、入学定員の増加がありましたので十六講座を最終目標にしまして、学部を挙げて拡充に努めて来ましたが一両年中には、ほぼこの目標も達成される予定でございます。このように経済学部が比較的短期間に施設あるいはスタッフの面で整備されたことについては、ここにご出席になっておられます設立準備委員の先生方が当初に確固たる基礎を築きあげられたこと、それからそれに答えて市当局が財政的な支援を惜しまなかったこと、こういったことは申すまでもありませんけれども、それと並んで医・薬学部を含めた市立大学の卒業生が各界において色々活躍しておられることに対して、社会的な高い評価があたえられている。こういうことが大きな契機になったことはいうまでもないことだと思います。私たちはそうした各方面の期待に沿うように目下教育内容の充実に努め、名実ともに整備された経済学部の実現に鋭意邁進しておる次第でございます。皆さま方卒業生の暖かいご支援を期待いたしまして、お祝いの言葉といたしたいと思います。

来賓祝詞

名誉教授　一谷藤一郎

本日は誠におめでとうございます。私は準備委員の時代を通算いたしますと、かれこれ六年間程この経済学部に関係しておりました。もっとも最後の一年間は非常勤講師で毎週一回京都から金融論・金融政策論の講義に通っておりました訳で、三期生の方々はその時私の講義を聞かれたことと思います。しかし、一期・二期生の方については講義だけでなくゼミナールも相当きびしくやったつもりで、今から思いますと、あるいはやりすぎたのではないかと後悔の念にたえないのであります。

ところで最後にこの同窓会をただ単に親睦の機関だけでなく、おたがいに切磋琢磨する場にもしていただきたいと念願しております。



名誉教授　静田　均

私は、この経済学部が創立される際に準備委員をおおせつかりまして、一谷さんならびに酒井正三郎さんと三人で、一年間その事に没頭いたしました。

昭和三九年四月に経済学部が発足しましたが、当初は、非常におそまつな建物でがまんをしていただきました。この点は、一期生の方には充分記憶に残っていると思います。その後、新校舎が建築され、又第一期生の卒業に間に合うように大学院の設置が話題にのぼりました。当時、私が学部長であった関係で、その設置には、自分としてできるだけの努力を払ったわけです。（中略）

どうか、この同窓会が今後も発展する事を願って止みません。

瀬尾後援会長

本日はおめでとうございます。この席におじゃまいたしまして、一谷先生、静田先生にお会いできて喜こんでおります。共に苦労した仲でございましたので、ひとしお感無量でございます。

先程来、皆様方のご協力によりまして経済学部同窓会が発足したことをおよろこびいたします。今後ますますこの同窓会が名市大の将来のためにその基盤となって、また後輩の先駆者となるよう皆さんのお骨折りがいただきたいと思います。

大波多前事務局長

今回の瑞山会の発足を心からお祝い申しあげます。これで名市大各学部の同窓会が全部発会したことになり、卒業生は現在医学部一六五六名、薬学部四五二六名、経済学部一八五八名を数え、大学全体で八〇四〇名になります。

さて、私事に亘って恐縮ですが私の半生は市大に始まり、市大に終ったと私自身思っております。今、私に経済学部の創設事務をやれといわれましても、とうてい出来ません。そのぐらい創設当時の情勢は色々な方面の援助や協力を頂きましたが、非常に厳しいものがありました。一期一会と申すべき静田先生、一谷先生等諸先生との巡り合いにより、経済学部はできあがったようなものです。

タガのゆるんだ同窓会など見よいものではありません。大らかで瑞山のごとく、今様にいえば、鉄の団結を誇る同窓会を期待いたしております。

和田医学部同窓会長

本日は瑞山会発会誠におめでとうございます。私は同窓会というものは、卒業してから切磋琢磨する社会人として非常に重要なものだと思っております。

皆さん、会長を中心にしてよりよい同窓会に発展させていただきたいと思います。

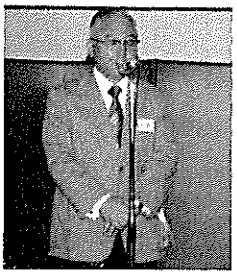
市立大学には薬友会もありますので、薬友会・瑞山会・医学部同窓会、この三つがスクラムを組んでよりよい市立大学の発展につくそうではありませんか。

横井薬友会長

今日はお招きにあずかりどうもありがとうございました。

私は議員をやっております関係から、何なりとおっしゃっていただければできる限りの力になりたいと考えております。薬友会としましても同窓の経済学部に同窓会が発足することは誠に慶ばしいことと考え、瑞山会の発展を心から祈念いたします。

祝　立大学経済



岩橋亮輔教授

創立当時といいますか、一・二期生の方々のころは、私はまあ兄貴分の気持だったのですが、年月につれて頭の白髪もひと一倍ふえまして、近ごろでは学生がそろそろ子供の歳に近づいて来て、ちょっとがっかりしております。しかし、年月が経つにつれて卒業生の方々も各界で活躍されているということ、それから我が名市大の評判も相当いいということも聞いております。

今後とも、この同窓会が親睦の会だけにとどまらず、仕事の上においても、あるいは人生の上においても、お互いに切磋琢磨し、励まし合う会に発展することを期待している次第です。

以上の他、金子敬生、松永嘉夫、木村吉男、西田耕三、根津永二、安藤金男、上村政彦、長坂登の各先生からご祝辞とともに暖いはげましのお言葉をいただきました。

瑞山会発足にあたって

会長　粟野泰次

設立総会を迎える一日前の事である。「明日同窓会を開くよ」と言ったら「そう、本当によかったね、後かたずけでいいからお手伝がしたいわ」と言って喜んで下さった方があった。平野さんである。経済学部が出来て以来ずっと学部の清掃にあたって下さっているおばさんである。この人の笑顔を見ながら、ふと、もう十年も前の初冬の頃、古い川澄の校舎でたき火を囲みながら、我々一回生の就職先がみつかった事を我が子の事の様に喜んで下さっていた平野さんを思い出した。

あの時も今も、かわらぬ暖かさが胸をふき抜け改めて同窓会を創りあげた喜びが実感できたものである。思えば、準備会の都度お茶をわかして下さったのも、この平野さんであり、また、事務室の工藤さんであった。工藤さんには卒業生の消息等でも色々協力していただいた。

同窓会創りは全てが順風満帆にいったわけではないし、善意ばかりが満ちていたわけではない。しかし大学・学部当局はじめ前述の方や、長坂さん、そしてまた郵便物の仕分をしていただいた山崎さんなど多くの人々の助言と協力があった事を忘れてはならないと思う。

自分が中学を卒業する時、数学の先生が「これからの十年間どんな人生を送るかで君達の一生が決まる」と言われた事を思い出す。

いずれにしても同窓会は労働組合などの明確な目的集団とくらべ、どちらかといえば無思想集団である。あまり眉をいからせ、目的や意義云々と叫ぶ必要はない。けれども経済学部もまだ十五年、揺籃期をすぎたばかりである。伝統なりイメージなりもこれから創りあげていく時期であるといってもさしつかえない。瑞山会もこうしたイメージづくりに参加したいと思う。そして、そのイメージは泥くさく、荒々しく、はみだし者とそしられる事を恐れない勇気ある心意気を持った男達の集団でありたいと心ひそかに思う。

いま、キャンパスのどこにも我々一回生が入学した頃のなつかしいクラシカルな木づくりの建物はない。明るいコンクリートの建物とアスファルトの構内を歩きながら、ふと、あの頃の痕跡をさがしている自分に気がつく時がある。東山魁夷という画家がある所で「私は生かされている。野の草と同じである――生かされているという宿命の中でせいいっぱい生きたいと思っている」と書いている。「なにお！」と思う。「俺は生きている。生き抜いているんだ」と思う。そう思いつつも「やっぱり生かされているのかな」などとも思う。

自分にとっての十五年は「生き」「生かされた」十五年だったような気がする。

若い年次の諸君の総会参加が少なかった。これらの諸君が総会により多く参加してくれるにはまだしばらくの歳月の積み重ねが必要なのかもしれない。いずれにしても気長に、そして龍頭蛇尾に終る事のない様多くの諸兄姉の協力で頑張りたいと思う。

大学の四年間はその十年の丁度まんなかである。流行歌風に言えば「道に迷ってばかりいる青春時代」そのものである。

同窓会と一口にいってもそのとらえ方は一人一人の卒業生の人生の道行が違う以上千差万別である。ただ、同窓会が己が人生をふり返り、問いなおし、さらにはオーバーホールする一つのきっかけになればと思う。

懇親会だより

雑感

一期生　夜波来

懐しい顔、声だった。回顧すべき時間は九万数千時間だ、その間一度も会わなかった友人もいた。「友人の名前をその空間へ忘れ去ってしまったか」不安が駈った…杞憂だった。記憶は明白に浮かびあがった。互いに飲んだ、食べた語りあった。飲んだ、食べた、語りあった。

だが、その時は過ぎた。もどってきた若い血潮、容易にはひかない。また会う時を約し、静かな夜の鋪道に身をおいた。遠くに大きく、ネオンより強く輝く星を見た。

同窓会に出席して

三期生　幾世　登

英語で同窓会をホームカミングという。卒業して九年目。一年半でトヨタ自工を退社してから滞米生活が長かった為か、かつての仲間の面影を覚えていても名前がなかなか浮かんで来ない。先輩か後輩か分っても、どういう繋がりだったかすぐには思い出せない。しかし、ちょっとした話の糸口から、次から次へと学生時代を思い起こす。自分でとっくに忘れてしまった事を昔の仲間が覚えている。同窓会の設立は機を得て、ホームカミング、つまり、家に帰って来たような親しみ、懐しさを感じた。

瑞山会設立総会に参加して

五期生　近藤　仁

第一回『瑞山会』の成功おめでとうございます。

卒業生の念願でありました同窓会の設立に御尽力頂きました幹事並びに関係者の方々に感謝すると共に、今後、同会を担い、より一層の発展・盛会へ導くのは、我々会員の力であると感じるものです。ここに、願わくば、諸先生方、卒業生の皆様のいま少しの参加が得られることを願う次第です。

参加しなかったあなたへ

十一期生　亜留

十一月十九日、その日、私は一言の言葉さえ交すことなく卒業していったあの人に会えるのではと、心ときめかせて都ホテルに向かった。しかし、会場にはその人の姿はなく、そればかりか、私にとって懐しい顔といったら、教授を含めて、両手で数えられるほどであった。その為、所謂、同窓会らしい雰囲気の中で我々十一期生はひとつの卓にこじんまりまとまり、黙々と食を進めていた。ただ、十一期生プラスαで「四季の歌」を合唱したのが唯一のスポットライトを浴びた時であった。

閉会の挨拶が終るや否や、銘々夜の街に散っていった。私も某グループ（長坂ゼミ？）と共に、ネオンの下に消えた……

最後に一言、何かの縁で名市大に入学・卒業したのですから、次回の同窓会にはあなた自身の手で会場の扉を開けて下さい。

≡翔んだ銀嶺の間≡

酒宴盛況也。

立食パーティ形式で、都ホテル自慢の料理がテーブルに並べられたほか、きしめん・そばコーナーも設けられた。勿論、左党派には、酒類がふんだんに用意された。

酒食も進み、壇上で独唱する者、恩師を囲んで合唱する者などがいたが、圧巻であったのは、ビール瓶片手にして壇上所狭しと春歌を吟った某氏であった。

また、数人の男性を従え、歌をうたい、名市大生気質も当初と比べて変ってきていると、感じさせる気丈な乙女もいた。もっとも、女性の出席者が四人と少なく、過日の憧憬の君（？）の姿を見たかった者もいたろうに、残念であった。

加うるに、本学部一の著名人大和田獏氏が出席取止めになったことだ。しかし、酒宴盛況也。

以上のように、高木学長と静田先生の鏡割で始まった宴は、松井先生の万歳三唱・胴上げによってその幕を閉じた。

この宴で燃えた炎は各々に新たな力となることだろう。

第一回理事会報告

日時　十二月七日(木)
場所　王山会館
出席者　二十一名

部長　坂野　修
副部長　松原　隆二
伊藤　正博

一、会務分担

庶務部
・総会、代議員会、理事会開催
・事業計画・その他の庶務
副会長　八木　得三
部長　近藤　常夫
副部長　杉浦　晴義
河野　敏雄・山田　忠雄
浜田　茂・大谷　正治
荒深美和子・沢田　武昭

編集部
・会報、名簿、追録発行
副会長　山田　雅也
部長　和田　了司
副部長　都島忠比古
榊原　茂・山田　義信
安田　章・木村　新作
鈴木　正彦・田中　喜夫
佐藤　克己・岡田美津雄
蜂須賀　誠

会計部
・会費徴収、通常運営費の管理
副会長　小林　英紀

二、総会反省

初めての総会ということで、経験及び準備不足のため、開始時間の点で遠方からの出席者に対し配慮を欠いたことをおわびします。

今後準備期間を十分とることが、必要だと思われます。

又、総会の開催形式について、各人の有意義な意見がありました。

三、総会会計報告

収入　会費　八一五、〇〇〇円
祝儀　九〇、〇〇〇円
合計　九〇五、〇〇〇円
支出　総会費一、一九一、四一〇円
不足額　△二八六、四一〇円

不足額は、瑞山会運営費から補助しました。

四、事業計画

・総会開催
・瑞山会報発行
・新卒業生祝賀会（卒業式当日）
・支部作り（地域・職場を中心としたもので、本部も積極的に援助します）
・名簿追録発行（年一回）
・名簿改訂（四年に一回）

五、予算計画

収入
新入生入会金　二百万円
卒業生・在学生会費
寄付・その他

支出
基金積立金
名簿発行費引当金
総会費
会報発行費
名簿追録発行費
新卒業生祝賀会費
通信費
事務運営費・その他

六、顧問決定

総会時の顧問に対して要請、左記の三氏の快諾を得ました。

学部長　松井　哲夫氏
事務長　浅野　和正氏
長坂　登氏

七、瑞山会事務局設置

経済学部共同研究室に、設置しました。電話、郵便は左記へおねがいします。

名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑一
名古屋市立大学経済学部内
瑞山会事務局
☎八七一―一三三四(内線二二八)

八、名簿発送について

総会開催後、早急に発送する予定でしたが、事務繁雑のため発送が遅れ、卒業生多数から問い合わせの電話をいただき、申しわけございません。名簿は十二月八日に発送しました。

九、在学生への呼びかけ

瑞山会の一層の拡充のため、在学生（準会員）へ入会勧誘の文書を十二月初旬発送しました。

在学生への名簿発送は、一月を予定しています。

創刊にあたって

三期　和田了司

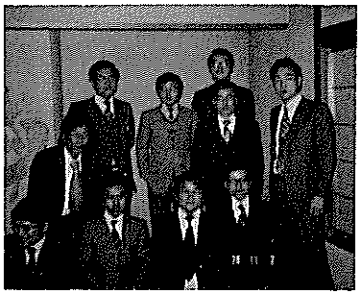
このたび瑞山会会報創刊号を発刊することが出来たことは、大変嬉しいことと思います。

発刊に到るまで総会の運営、名簿作成に、ご尽力いただいた準備委員、側面援助をしていただいた方々に感謝いたします。

今後この会報は、同窓会活動報告、卒業生及び恩師の方々の近況報告、学園だより等を掲載し会員がこの会報を通じ親睦を深め、又切磋琢磨を図る場となる様な紙面づくりを心掛けるつもりです。

さて創刊号は、同窓会設立記念号という性格もあり、きめ細かなニュースを盛り込めませんでしたが、次回の会報には創刊号の経験を生かして、新会員の就職情況、なつかしい恩師の近況、同窓会に出席できなかった遠隔地各地の同窓生の近況、学園内のクラブ活動市大祭等のスナップ、職域別、地域別支部のニュース等を盛り込んだ会報を発刊出来る様努力したいと思います。

我と思わん方の編集部へのご協力と会員皆様のご理解をお願いしたいと存じます。



編集部員一同

総会裏話

一期　小林英紀

四月初旬の準備会の発足以来足かけ八ヶ月経って、やっと設立総会を開催でき準備会の委員として万感胸にくるものがありました。

準備会では果して二〇〇名もの出席者を集めることができるか等色々と相談しましたが、会員の参加が良くほぼ見込数の方々が出席されました。

さて、総会の式次第は準備会で決定され、その台本はT氏が二日間に渡り未明までかかって仕上げた労作であった。その台本に従って総会は進行した。司会者の台本の勉強が不十分であったことにあわせ、経験不足であったため、総会のスムーズな進行ができなかったことを反省している。しかし、来賓の方々に全員より心温まる祝辞をいただき、会員のかくし芸もとび出し、またゼミ単位のなつメロ合戦もあり、大いに懇親を深めることができたと思います。

名簿(追録)作成について

多数の方々のご協力により、一七〇〇余名の現況を掌握でき、名簿に記載することができましたが、まだ一〇〇余名と連絡が取れません。名簿の不明部分についてご存知の方は至急左記宛まで連絡いただきますようお願いいたします。

また、氏名・現住所・勤務先など異動がありましたら、その都度左記宛まで連絡頂きますようお願い致します。

名古屋市瑞穂区瑞穂町山ノ畑
名古屋市立大学経済学部内
瑞山会事務局

会費振込のお願い

会員の皆さん！やっと瑞山会はよちよち歩きを始めました。何もないところに築き上げるのですから、会員全体の協力が必要です。

今後色々な活動を推進するためにも、早く財政基礎を確立したく思います。現在のところ、会員の約四割の方に会費を振込んで頂きました、ぜひまだ納入が終えて無い方には、近くの郵便局で振込んで頂きますようお願い致します。

第二回理事会開催予定

日時　一月二十五日(木)午後六時
場所　名市大経済学部　会議室
議題　予算計画・規約の追加

今後の瑞山会の活動に、ご意見ご希望のある方の多数の参加を歓迎します。

編集後記

此の度の同窓会設立に燃え上がった炎は、まだ燃え続けている。当編集部の面々、総会から一ヶ月後に会報創刊号の発行へと意気揚々たるもの、この勢いで中身もます〳〵充実していきたい。

S・S（一期）

師走です、この創刊号も大忙しの発行でした。　S・K（五期）

諸先生方のご祝辞は、紙面の都合と録音状態から、大意を変えない程度に表現を変更した部分があることをお断りします。

M・S（七期）

編集までに四回、山の畑に足を運びました。立派な体育館、学生会館、もう木造建築は何もありません、母校の発展と卒業後の年月を改めて確認した次第です。

R・W（三期）

自分の書いたものが活字になって発行されるのは、初めての経験です。刷り上がりが楽しみだ。しかし、編集という仕事は……。

K・S（八期）

名簿作成、総会開催、会報発行と、今年一年追われて過ぎた。瑞山会発足に係りできたのも何かの縁！何年後にでも、楽しい思い出話になると思います。

M・Y（三期）

瑞山会会報創刊号発行の一員であった事を、大変嬉しく思います。この会報を、同窓生間のコミュニケーションの場として大いに利用して下さい。　A・Y（三期）

最も新しい卒業生として、創刊号の編集に参加でき、嬉しく思うが、能力不足で、充分協力できなかったことを残念に思う。

M・H（十一期）

十五年間の歴史の跡が出来上がった。ここに百年の計の第一歩が印された。　T・T（三期）